

## 九州B平和フォーラム辺野古座り込み 13 回！

九州ブロック平和フォーラムと山口県平和運動フォーラムが合流しての辺野古座り込みと海上での抗議行動が 1 月 21～22 日にかけてとりくまれました。私が辺野古テント村に到着するや、すでに座り込みに参加している沖縄協の仲間から「森ちゃんの仲間が大勢参加しているよ」と話しかけられ、久しぶりに平和フォーラムの参加にうれしさがこみ上げてきました。

午前 9 時半、正午、午後 3 時の 3 回、機動隊に強圧的にごぼう抜きされ、みなさんは警察の対応に怒りがおさまらなかつたのではないかと思います。海上でも抗議船による行動も、陸の警察官よりも悪質な海上保安官に、怒りをぶつけていたと思います。

ここで最近の座り込みの実態について報告します。われわれの命を粗末にする国交省にはまず抗議したい。歩行者が安全に通行できない状態を作り出している。歩道を一人がようやく通行できるほどに狭めて、座り込む我々を締め出していることは許されない。講義中に通行する車両にいつも気を使い、尚且つ右翼団体がいつ突っ込んで来ると緊張を強いられる。次に防衛省にも猛抗議しなければならない。われわれを締め出すために、歩道上に大きなタンクを設置しているほか、鉄柵を設置している。一般歩行者が通行する作業ゲート入り口の歩道は占拠してしまっている。このため我々は常に車道に追いやられ交通事故も起きる危険な状態に置かれている。これは防衛省に責任がある。また防衛省に雇用されている警備会社の社員が毎日 50 人ほど作業ゲート前に配置され隊列を組んで我々の抗議する場所を占拠している。威圧的な態度で警察権力と一体となって襲いかかってくるかもしれないと不安がある。

キャンプ・シュワブに雇われている警備員も悪質だ。戦闘服に腰には拳銃、全員ウチナーと思われる。米軍の命令があれば銃を抜くのではないかと不安に駆られる。ここにも県民同士の分断がある。その原因は米軍基地であり、米国、日本の沖縄に対する政策にある。彼らは常にゲート前に参加している県民の写真を撮り、発言をメモし、望遠鏡で監視している。基地の業務とはかけ離れたスパイまがいの行為である。許せない。このために小説家の目取真俊さん海保に逮捕され、基地内に 8 時間も海水に濡れたまま拘束される弾圧を受けた。

こうした権力側の弾圧と緊張の高まりのなか、九州や山口のみなさん、本当にありがとうございます。県内のみなさんも大変喜んでます。

最近の辺野古関連の新聞報道を一部紹介します。

- ・防衛省は新基地建設について工期 12 年、費用 9300 億円と発表した。 (2019 年 12 月 26 日)
- ・懸崖土砂規制条例の網をかいくぐることを狙って、軟弱地盤対策で使用する土砂を県内で調達すると発表する。 (2019 年 12 月 28 日)
- ・新基地建設を阻止する闘いが 12 月 27 日で 2000 日になる。座り込みは 2014 年 7 月から。 (2019 年 12 月 28 日)
- ・辺野古の浜で新年を祝うハチウクシー（初興し）が行われ、市民ら 300 人が参加、新基地建設阻止に向けて気持を一つにしました (2020 年 1 月 1 日)
- ・世界的な音楽家坂本龍一さんが、辺野古の海、大浦湾を視察した。美しい自然を壊してまで基地をつくる意義がないと発信。 (2020 年 1 月 4 日)
- ・吉永小百合さんと坂本龍一さんがコンサート、詩と鍵盤 平和の二重奏 沖縄の思いが響き渡る。収益金は辺野古基金などに使われる。 (2020 年 1 月 6 日)
- ・軟弱地盤の改良工事に関する有識者会議の委員 3 人が工事関係者から計 570 万円を受け取っていた。 (2020 年 1 月 10 日)